

いる大変さを表現するものとして多くの人々の共感をえました。

例えば「料理」にしても、キッチンに立って鍋を振るだけでは家事は完結していません。冷蔵庫の中の食材を見ながら献立を考え、買うべきものをリストアップして買い出しに行くなど、その周辺にたくさんの作業があります。「洗濯」にしても、洗濯物を洗濯機に放り込むだけでは作業の一部分をこなしただけに過ぎません。洗剤を準備し、デリケート品はネットに入れたり、汚れがひどいものは部分洗いをしたりしなければなりません。洗濯機を回し終わっても、干して、取り込み、畳んで、しまうといった作業が続いていきます。そうした積み重なる細かな作業が「名もなき家事」です。それは日常生活の中に無数に、そして継続的にあり、こなしていくことは大変な労力を必要とします。

「イクメン」や「カジダン」といった言葉がもてはやされ、家事をシェアする男性が増えているとも言われますが、総務省の「社会生活基本調査」(平成 28 年)

によれば、男性の家事関連時間は 1 日平均 44 分、一方で女性は 3 時間 28 分と、依然として女性が男性の 4 倍以上の時間を家事に費やしています(表 1)。近年縮まる傾向にはあるものの、その差はまだまだ大きなものです。そして、「名もなき家事」については前述の大和ハウス工業のアンケート調査で、その大部分を女性が担っている状況が示されており、男女間の家事負担の差の大きな原因の一つと考えられます。同調査では、男性は「名もなき家事」をそもそも認識していない傾向も指摘されており、家事についての意識の面でも大きな差が浮き彫りになっています。

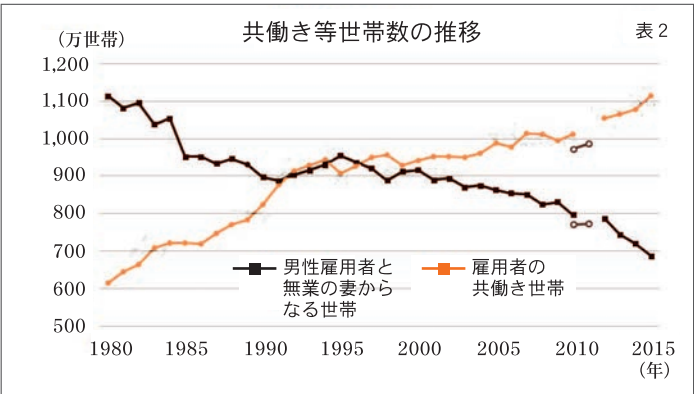
男女別家事関連時間(平成23年、28年)一週全体 表1
(時間 分)

	男			女		
	平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年	増減
家事関連	0.42	0.44	0.02	3.35	3.28	-0.07
家事	0.18	0.19	0.01	2.32	2.24	-0.08
介護・看護	0.02	0.02	0.00	0.05	0.06	0.01
育児	0.05	0.06	0.01	0.23	0.24	0.01
買い物	0.17	0.17	0.00	0.35	0.34	-0.01

資料：総務省統計局「平成28年社会生活基本調査結果」

男性も積極的に「名もなき家事」を

厚生労働白書によると、1980 年代までに多かった専業主婦世帯は 1990 年代には共働き世帯と半数になり、2000 年代にはその数が逆転しました(表 2)。女性の社会進出、女性役員の増加が進み、専業主婦世帯と共働き世帯が 20 年で逆転したように、これか



注：1980年から2001年までは総務省統計局「労働力調査特別調査」、2002年以降は総務省統計局「労働力調査（詳細集計）（年平均）」

1 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者（非労働力人口及び完全失業者）の世帯。

2 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦共に非農林業雇用者の世帯。

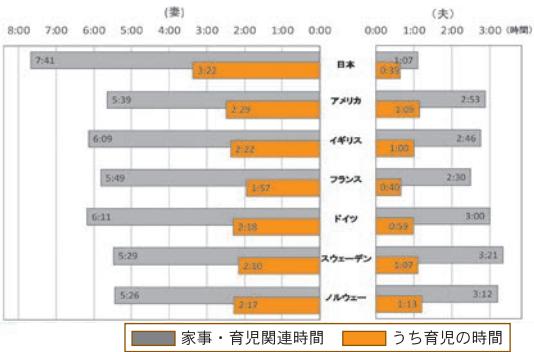
3 2010年及び2011年の値（白抜き表示）は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

4 「労働力調査特別調査」と「労働力調査（詳細集計）」とでは、調査方法、調査月などが相違することから、時系列比較には注意を要する。

資料：「平成30年版厚生労働白書」（厚生労働省）を加工して作成

ら 20 年後には男性と女性は同じように働いているかもしれません。日本では男性の家事・育児に費やす時間が先進国中最底の水準にとどまっており(表 3)、まだまだ圧倒的に家事を担っているのは女性側です。しかしこれからの時代、仕事でも家庭でも男女差のないスキルを身につけていくことが重要になっていくのではないのでしょうか。

6歳未満の子供を持つ夫の家事・育児関連時間(1日あたり・国際比較) 表3



1 Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life Of Women and Men." (2004), Bureau of Labor Statistics of the U.S. "American Time Use Survey" (2015) 及び総務省「社会生活基本調査」(2011 (平成23年)より作成。

2 日本の数値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫と妻の1日当たりの「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間

資料：内閣府男女共同参画局 男女共同参画白書平成29年版